

# 2022年度第5回地域連携活動報告会

## 2023年2月17日開催

# 「地域の未来に貢献する大学の役割」

## 基調講演

講師：山本 外茂男教授(北陸先端科学技術大学院大学産学官連携推進センター長)

主催：金沢星稜大学地域連携センター



2023年2月17日(金)、金沢星稜大学本館A11教室にて2022年度地域連携活動報告会が開催されました。コロナ禍のため、昨年と一昨年はオンラインのみでの開催でしたが、第5回を迎えた本報告会は、3年ぶりの対面形式にオンラインも加えたハイフレックスで実施されました。会場には発表学生17名を含む30名が参加、オンラインでは教職員、本学学生、外部の大学関係者の計42名が参加しました。

## 第一部 星稜ジャンプ地域活動プロジェクト 成果報告会

第1部は、学生が自分たちで企画・実践した様々なプロジェクトを通して経験したこと、学んだことを発表する場として、星稜ジャンプ地域活動プロジェクト(通称：ちいプロ)成果報告会を行いました。

今年度もコロナ禍の影響で活動が制限される中、7団体約140名の学生が工夫を凝らして実施した活動内容や成果、学び等を発表しました。

質疑応答や他団体の発表から刺激を受け、今後の活動への新たな一歩につながる報告会となりました。



ちいプロのロゴマーク

## 第二部 基調講演

第2部は北陸先端科学技術大学院大学教授で産学官連携推進センター長の山本外茂男教授をお招きし「地域の未来に貢献する大学の役割」をテーマに基調講演を行いました。この講演で産学官連携の課題やそれを担う人材の育成の必要性を理解することができました。また、本学も参画している産学官金連携マッチングイベント Matching HUB の現状についても紹介があり、参加者にも北陸における産学官連携の取組状況を知る良い機会となりました。



## 第三部 「地域連携による地域貢献活動」 推進事業成果報告会

第3部は教員とゼミナール等の団体が、専門的な知見と情熱ある行動力を生かし、関係団体と連携して地域の活性化に結び付ける活動を行う「地域連携による地域貢献活動」推進事業の成果報告会を行いました。様々な思考を凝らし地域の課題解決や活性化に向けて活動している様子が報告されました。

本報告会は、今後の本学の地域連携活動の核となり得る興味深い内容が数多く報告されました。本学では今後も学内にとどまらず、自治体や学校、各種団体等の関係者、また地域の皆様にも共有し、更なる地域連携活動の発展を目指していきます。

2022年度金沢星稷大学地域連携センター  
地域連携活動報告会  
2月17日(金) 09:30-15:30  
金沢星稷大学 1階【A11教室】または Zoom配信 ハイブリッド開催

9:30~12:00  
星稷ジャンプ地域活動プロジェクト成果報告会  
・HACK  
・Vegetable Café ベジカフェ  
・いしかわ子ども交流センター活性化プロジェクト  
・キッズプログラミングアカデミー  
・食生活(子ども支援活動)  
・FTGS  
・コスメティックペロリンフ

13:00~14:00 基調講演  
テーマ「地域の未来に貢献する大学の役割」  
講師 山本外茂男 教授  
(北陸先端科学技術大学院大学産学官連携推進センター長)

14:00~15:30  
「地域連携による地域貢献活動」推進事業成果報告会  
・経済学部 新 広昭副学長 「SDGs 未来都市白山市のプロモーション活動  
—白山・手取川ジオパーク国際認証後のSDGs 観光を視野に」  
・経済学部 石川美澄准教授 「南砺市程ヶ池エリアにおけるブレイスメイキング  
—子ども向けイベントくなんどで!」の企画・実施  
・人文学部 前田昌寛准教授 「志賀町小学校英語教育プロジェクト」  
・人間科学部 西村貴之教授 「Future Challenge Project2022(プロスポーツ発!誰もが  
共に暮らし続けられる街づくりを目標に挑戦する活動)」  
・人間科学部 清水和久教授 「羽咋地区における国際交流支援、ICT活用支援」  
・人間科学部 三好伸子教授 「茅葺き文化に関する絵本作り」

お申込み方法  
電話、メール又はQRコードの何れかでお申込みください。  
メールでお申込みの場合は、氏名、電話番号、所属、参加方法、参加プログラムをご記入ください。

申し込み締め切り  
2月10日(金)

問い合わせ先  
金沢星稷大学地域連携センター  
TEL: 076-253-3985  
E-mail :chiiki-renkei@seiryu-u.ac.jp

## 活発な質疑応答

今回の報告会では全ての部において、質疑応答は「Slido」というツールを利用し、実施しました。

参加者からスマホやパソコンを利用し、オンライン上で質問をいただきました。参加者は、報告中であっても質問が可能であるため、本当に多数の質問が寄せられました。講師や教員はもとより、発表経験が少ない学生も当意即妙な回答をし、全体的に活発な質疑応答が行われました。

